

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

玉城町教育委員会

玉城町教育委員会では、各校の代表者等で組織する玉城町学力向上推進協議会を設置し、町内小・中学校の児童生徒の学力や学習状況を分析しています。そして、各校及び町全体の成果と課題を検証し、授業改善と児童生徒の学習改善につなげる取組を進めています。

分析結果については、良好な結果がみられたものを「強み」、課題がみられたものを「弱み」として表し、今後の取組と併せて以下の通りまとめました。

1 調査の概要

- (1) 調査日 令和5年4月18日(火)
- (2) 対象 4小学校第6学年(158名)、中学校第3学年(134名)
- (3) 対象科目 小学校：国語・算数 中学校：国語・数学・英語

2 教科に関する調査の結果

※教科に関する調査結果における「強み」

平均正答率が特に高かったもの

全国平均・県平均を大きく上回ったもの

(1) 小学校

①国語科

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none">・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと・文章の種類とその特徴について理解すること・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること	<ul style="list-style-type: none">・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
有田小	<ul style="list-style-type: none">・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること	<ul style="list-style-type: none">・原因と結果など情報と情報との関係について理解していること・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
外城田小	<ul style="list-style-type: none">・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること	<ul style="list-style-type: none">・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること
下外城田小	<ul style="list-style-type: none">・原因と結果など情報と情報との関係について理解していること・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること・日常よく使われる敬語を理解していること	<ul style="list-style-type: none">・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること

②算数科

	強み	弱み
田丸小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
有田小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを証明するために、表の中の適切な数の組を用いること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
外城田小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること ・ 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを証明するために、表の中の適切な数の組を用いること ・ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台形の意味や性質について理解していること ・ 正三角形の意味や性質について理解していること
下外城田小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できること ・ 台形の意味や性質について理解していること ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正三角形の意味や性質について理解すること ・ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えること

☆小学校の取組☆

【国語科】

- ・ 朝学習の時間や宿題等で、文章読解プリントに取り組み、読解力の向上を図る。
- ・ 朝の読書、ビブリオバトル、ブックトーク等、読書量を増やす取組を進める。
- ・ 文字数やキーワード等の条件付きで書く活動を取り入れる。
- ・ 学-Viva!!セット等を活用し、学習内容の理解と定着を図る。

【算数科】

- ・ 式や図、表等を用い、算数用語を適切に使って考えを説明する活動を取り入れるなど、算数科における言語活動を充実させる。
- ・ 学-Viva!!セット等を活用し、学習内容の理解と定着を図る。

(1) 中学校

①国語科

【強み】

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

【弱み】

- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと

②数学科

【強み】

- ・自然数の意味を理解すること
- ・数と数式の乗法の計算ができること
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えること

【弱み】

- ・累積度数の意味を理解すること

③英語科

【強み】

- ・文と文の関係を正確に読み取ること
- ・未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くこと

【弱み】

- ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉えること
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること

☆中学校の取組☆

【国語科】

- ・ドリル学習や単元テスト、確認テスト等を取り入れて、確実な知識・技能の習得を図る。
- ・定期テストにおいて、複数の条件をつけた設問を出題し取り組ませる。
- ・条件にあっているか、すべての条件を満たしているかについて、複数の資料から読み取る活動を取り入れる。

【数学科】

- ・途中式や証明等も省略せず、整理して記述する課題に取り組ませる。
- ・関数やデータの活用の分野について、言葉の意味や使い方について復習する。
- ・議論を通して、自分の考えを修正したり深めたりする協働的な学習活動を取り入れる。

3 児童生徒質問紙調査の結果

※質問紙調査の結果における「強み」

肯定的回答をした児童生徒の割合が特に高かったもの
全国の割合より良好な結果がみられたもの

(1) 小学校

【強み】

- ・朝食を毎日食べている
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・友達関係に満足している
- ・昼休みや放課後、休日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館に行く頻度が高い
- ・今住んでいる地域の行事に参加している
- ・授業で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使用した
- ・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた
- ・国語の授業の内容はよく分かる

【弱み】

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が低い
- ・休日の学習時間が比較的短い
- ・学校の授業以外で、英語を使う機会が少ない
- ・家庭学習の課題（宿題）として、ICT機器を活用して、英語の音声を聞いたり、英語を話す練習をしたりする機会が少ない

(2) 中学校

【強み】

- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている
- ・困りごと等を先生や大人にいつでも相談できる
- ・今、住んでいる地域の行事に参加している
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- ・外国の人に住んでいる地域や社会のことをもっと知ってもらいたい
- ・授業で、ICT機器をよく活用した
- ・授業で、課題解決に向けて、自分で考え、取り組んでいた
- ・授業で、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた
- ・国語で学習したことは役に立つと思う
- ・行書の基礎的な書き方を理解している
- ・国語で、聞き手の立場に立った効果的な話し方を工夫している
- ・数学の授業内容はよく分かる
- ・英語で、スピーチやプレゼンの活動、書く活動、聞く活動をよくしていた

【弱み】

- ・家で、計画的に学習をしている生徒の割合が低い
- ・普段の日の学習時間が比較的少ない
- ・休日の学習時間が比較的少ない
- ・読書をする時間が少ない生徒が多い
- ・図書館に行く生徒が少ない
- ・授業で、資料等を活用して発表活動をしていない
- ・英語が好きでない生徒の割合が高い
- ・英語が将来役に立つと考えている生徒の割合が比較的低い

児童生徒質問紙の結果から、小学校・中学校とも、授業におけるICT機器の活用率が高いことが明らかになりました。ICTを日常的に活用できる環境が整備されており、タブレット端末の操作に慣れている児童生徒が多いことは、これまでの取組の成果として玉城町の強みといえます。一方で、端末の取り扱い等では課題もみられます。今後も、情報モラル教育の充実と並行し、ICTを活用すること自体が目的化しないよう、教育効果を考えた活用を一層推進します。さらに、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、児童生徒一人ひとりの学力の定着等、資質・能力を育成する教育活動を展開します。

また、全国と比較し、平日・休日の家庭での学習時間が短く、家で計画的に学習している児童生徒の割合が低いという課題も明らかになりました。クロス集計では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」という設問に対して、よくしていると回答した児童生徒は、全くしないと回答した児童生徒に比べ、各教科の平均正答率が高いという結果でした。今年度、玉城町学力向上推進協議会において、これまで家庭向けに配付していた資料を見直し、新たに「家庭学習の手引き（保護者向け）」を作成しました。この手引きも参考にし、家庭と学校とが一層連携し、家庭での学習習慣を定着させ、児童生徒の「学ぶ力」を育む取組を推進します。また、「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」の取組も継続し、効果の検証・分析をすることで、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒の育成を目指します。

調査結果を受けて、できなかったことをできるようにするために、今回弱みとしてとらえたことを全職員で共有し、各学年の指導事項と照らし合わせたうえで、日々の授業改善に生かす取組を各校で進めます。